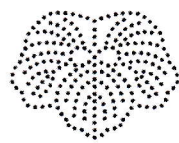


「リゅうま伝」は高野分身に、お客様の心へご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



リゅうま伝

67号

2025年6月26日
高野 竜馬

「アルプス席の母」を片手に
「本当は女の子のお母さんにな
りたかった。」
こんな書き出しから始まる波
乱の物語、「アルプス席の母」に
涙した高野です。高校野球
を母親目線で書かれた小説で
す。
母と子、背番号をもらうための
レギュラー争い、そして、親同
士の確執、指導者と子供、そ
して親。野球に限らず、子供に
団体競技をさせている方なら
間違いない、あ、それ、
面倒そう、って感情移入でき
る物語です。
登場人物はみな個性豊かで、
最初はチョット「この人どうなん
かな？」と思える人も何故か
最後は憎めなくなるのが不
思議です。

球児たちと共に成長していく
親や指導者の姿がよく描か
れています。また推理小説の
ように巧妙に仕組まれた物語
なので、最後の最後はウル、と
することでしょう。
そして、まさに今、この物語と重
なる現実のドラマが、青森で
も始まります。
子どもの頃、野球少年だった
私も今は息子がサッカーをして
いる関係で、スポーツ観戦とい
えばJリーグばかり。そんな私が
野球で唯一「推し活」をしている
青森の聖愛高校が今年もま
た甲子園を目指すのです。
私が初めて聖愛高校、原田
監督のことを知ったのは、或る
経営者団体での講演がキ
カトリでした。
このDVDはとても感動的で
多くのスポーツ指導者に見て

欲しいので、私が主催する経
営者団体のモーニングセミナー
でDVDに上映します。ご興味
ある方はぜひ気軽にご連絡
ください。
原田監督は弱小チームだった
聖愛高校を強豪校に育て
あげ、甲子園で敗れた際も試
合後に見せた「美しすぎるお
辞儀」がYouTubeでも話題
になりました。
一礼の所作に宿るのは、相手校
への敬意と支えてくれる人々へ
の感謝。彼らの見事に揃った
お辞儀には「チームの一体感」と
「人間力」が、にじみ出ています。
そして今、原田監督は「ノーサ
イン野球」という選手の自主
性を重んじたプレイを指導す
されてあると聞きます。指示が
なくても選手自らが状況を見
断し、行動する習慣を身につ
けることが狙いなのとか。
ここ数年、あと一歩、甲子園
に届かずという状況が続いて

いますが、今年こそ「ノーサイ
ン野球」で、予選を突破し、
甲子園で「美しすぎるお辞儀」
を見せてくれることを楽しみに
しています。
そして今年はグラウンドで活躍
する選手だけでなく、「アル
プス席の家族」にも注目して
観戦します。
スタンドで応援する親御
さん達の気持ちに、心を重ね
合わせて高校野球を味わ
おうと思います。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> x-11fp.takano@gmail.com